

現代経済学

「非対称情報下の経済分析」*

ポイント

伝統的な経済学における仮定：

完全な情報・・・すべての情報がすべての経済主体に明らかになっている。

現代の経済学では、この仮定をゆるめる

(情報に関する)

- 非対称性・・・(すべての)情報が一部の経済主体にだけ明らかになっている。経済主体間の情報格差(情報偏在)。
- 不確実性・・・一部の情報だけが(すべての)経済主体に明らかになっている。

内容

非対称情報 asymmetric information

- 2001年 ノーベル経済学賞 J.スティグリッツ, G.アカロフ, M.スペンス
(資料を参照のこと)

例) 工業製品, たとえば乗用車

- 新品: どれでも品質はほぼ同じ どれでも同じ価格
- 中古品: それぞれ品質が異なる 「どのような価格がつくだろうか？」

レモンの原理 (G.アカロフ)

非対称情報と逆選択 「フリー・マーケットで中古車は売れるか？」

効率賃金仮説 (J.スティグリッツ)

モラルハザード 「仕事をサボる代償は？」

シグナリング (M.スペンス)

シグナリング = “品質” の情報伝達 「資格取得は就職に有利か？」

備考

- ・ 不確実性については、「不確実性の経済学」で扱う。